

あ と が き

本校の研究主題「発達と障害に応じた教育をめざして」は、何も目新しいものではなく、精神薄弱教育の共通の課題であり、この教育に携わる者の目指すところである。この大きな課題に切り込む一方法として、副題一からだづくりを通して一をもって研究実践に取り組んで3年目を迎えた。

私たちの研究は、研究のための研究であってはならないのはいうまでもない。常に、子どもを中心に据えた実践的研究であらねばならない。研究の大半を理論の構築に取られたり、その理論を振りまわしたりすることを厳に戒めねばならない。

従って、鳥取大学教育学部の諸先生の指導を得ながら、次のような基本姿勢を確認しあって、本年度の研究と実践を積み重ねて行った。

- ・きちんとした理論が先にあるのではなく、子どもたちのいろいろな活動が先にあって、その活動に時々理論的な確かめをし、裏付けをして子どもたちを見つめていくことが大切ではなかろうか。
- ・生き生きと、楽しんで、力いっぱい取り組む子どもの姿は、教師がその子の活動をその子にとって素晴らしい活動であると認めるところから出発しているのではなかろうか。
- ・子どもの活動をしっかり見据えることによって、教師の手だてや機転、見通しが確かなものになり、次の課題を投げかけることができる。そのことが、一人ひとりの力の積み上げにつながるのではなかろうか。
- ・授業場面での子どもたちの行動をいろいろ話し合ったり、意見を出し合ったりする中で授業づくりが積み上げられる。また、子どもの行動を読み取る力や、機転をきかせた対応、先を見通した配慮などを身につけることができるのではなかろうか。
- ・子どもと教師が、共に力いっぱい取り組む活動こそ、子どもの次を見通した配慮が生まれるのではなかろうか。

この研究実践は来年度の4年次をもってひとつの区切りとする予定である。不十分なところが多々ある上、課題も山積みしている。最終年度に向って、この研究実践を確かなものになりたい。そのためにも各位の忌憚のないご批評、ご指導をお願いする次第である。